

7年ぶりのインカレ出場— バレー部が私たちを成長させた 女子バレー部



Catch the future

キャンパスインフォメーション

夢中人 | 研究室より | 同窓会情報

表紙のひと 仙台大学女子バレー部

向上心と、互いを思う気持ち バレーが、 私たちを成長させてくれた!

チーム全員の努力

Team Effort



部活動に励む学生の多くが目標に掲げるのが、全日本インカレ(全日本バレー部大学選手権大会)出場であり、そのために日々努力を積み重ねている。そうした中、女子バレー部は2025年、7年ぶりに全日本インカレ出場を果たした。「今年こそ!」という強い思いのもと成長を遂げた選手たちに、バレーにかける思いを聞いた。

左から、小松梨里花さん、村山知加さん、先崎斐さん、上岡楓果さん、大立目彩佳さん、富里愛華さん

先崎
私は小学2年生からバレーを始めました。憧れの先輩が仙台大学に進学し、バレー部に入ったらと知り、「自分も後に続きたい」と思ったのがきっかけです。

大立目
私もずっとバレーをしてきて、高校の時に「やり切った」と感じていました。しかし、アナリストに興味を持ったことがきっかけで、本学のスポーツ情報マスマディア学科に進学することに。大学では選手ではなく、アーチストとしてバレーに関わると決めました。

村山
私も小学4年生からバレーをしていましたが、高校で「やり切った」と感じていました。栄養学に興味を持ち、進学先に選んだのが仙台大学。どうせならもう一度バレーをやってみようと思い入部しました。将来は栄養士志望、今は「スポーツ栄養研究会」で男子バレー部の栄養面のサポートもしています。

小松
当初バレーは高校までと考え、大学では保育士の資格取得の勉強に専念する予定でした。そんな時、先

生から「仙台大学には子ども運動教育学科もあるし、バレーも続けてみたら」と勧められ、チャレンジすることにしました。

富里
大学でもバレーを続けると決め、それを大前提

に進学先を考えました。子どもが好きで保育士を目指していましたので、バレーもできて、保育の勉強もできる仙台大学を選択しました。

上岡
保健体育の教員免許を取りたかったことが理由の一つです。また、大学では「絶対に試合に出たい」という思いがありました。関東エリアは部員数が多く、試合に出られる確率が低いと考え、部員数や雰囲気、先輩たちが真剣に取り組む姿を見て仙台大学に決めました。今もその選択は正しかったと思っています。

Q チームの強みはどんな点にありますか?

先崎
上下関係なくフラットで、何でも言い合える関係。片岡監督はチームのことを誰よりも考えてくださり、一人ひとりと向き合いながら組織を強くしてくれる方です。

Q 仙台大学を選んだ決め手は?

先崎
私は小学2年生からバレーを始めました。憧れの先輩が仙台大学に進学し、バレー部に入ったらと知り、「自分も後に続きたい」と思ったのがきっかけです。

大立目
私もずっとバレーをしてきて、高校の時に「やり切った」と感じていました。しかし、アナリストに興味を持ったことがきっかけで、本学のスポーツ情報マスマディア学科に進学することに。大学では選手ではなく、アーチストとしてバレーに関わると決めました。

村山
私も小学4年生からバレーをしていましたが、高校で「やり切った」と感じていました。栄養学に興味を持ち、進学先に選んだのが仙台大学。どうせならもう一度バレーをやってみようと思い入部しました。将来は栄養士志望、今は「スポーツ栄養研究会」で男子バレー部の栄養面のサポートもしています。

小松
当初バレーは高校までと考え、大学では保育士の資格取得の勉強に専念する予定でした。そんな時、先生から「仙台大学には子ども運動教育学科もあるし、バレーも続けてみたら」と勧められ、チャレンジすることにしました。

富里
大学でもバレーを続けると決め、それを大前提に進学先を考えました。子どもが好きで保育士を目指していましたので、バレーもできて、保育の勉強もできる仙台大学を選択しました。

上岡
保健体育の教員免許を取りたかったことが理由の一つです。また、大学では「絶対に試合に出たい」という思いがありました。関東エリアは部員数が多く、試合に出られる確率が低いと考え、部員数や雰囲気、先輩たちが真剣に取り組む姿を見て仙台大学に決めました。今もその選択は正しかったと思っています。

Q 2025年の戦績を振り返って

先崎

私たち4年生は「自分たちの代でインカレ1勝」

を目標にしていました。それは叶わなかつたですが、出場できたこと 자체が最高の思い出です。監督や大学、保護者の皆さんなど、応援してくださる方々のお陰だと改めて感じました。

大立目

アナリストとして4年間取り組んできました

が、東北リーグでは積み上げてきたことを選手がしっかりと理解し、やり切ってくれたのが良かったです。一方で、インカレでは相手チームへの分析や対策が十分ではなかつたと感じました。

村山
セッターとしてもつとうまくなりたいという気持ち、副キャプテンとしての役割もあり、苦しい時期もあり、一人ひとりと向き合いながら組織を強くしてくれる方でした。



上岡 楓果さん リベロ/キャプテン

体育学科4年/茨城・大成女子高校出身

①LE SSERAFIM ②編み物・チーズ ③「なるようになる」

先崎 斐さん レシーバー・主務

体育学科4年/福島・田村高校出身

①東海オンエア ②母の作る唐揚げ ③「当たり前のことを見たときに」

大立目 彩佳さん データ分析师

スポーツ情報マスマディア学科4年/宮城・聖ドミニコ学院高校出身

①ユーチューブ・編み物 ②料理・カレーライス ③「なるようになる」

村山 智加さん セッター・副キャプテン

スポーツ栄養学科3年/山形・上山明新館高校出身

①映画鑑賞 ②フルーツ ③「運命は受け入れる」

小松 梨里花さん ミドルブロッカー

子ども運動教育学科3年/宮城・利府高校出身

①音楽を聴く、旅行 ②自然散策 ③「やればできる」

富里 愛華さん オボジット

子ども運動教育学科3年/宮城・利府高校出身

①散歩 ②納豆ごはん ③「栄光に近道なし」

※①オフの日は?? ②これ大好き! ③好きな言葉



一人ひとりとまっすぐに向き合う 女子バレーボール部 片岡 悠妃 監督

経歴・指導歴 宮崎大学教育学部卒業、筑波大学大学院修了。小学校から大学卒業までエーススパイカーとして活躍。その後コーチングを学びて筑波大学大学院へ進学し、女子バレーボール部の学生コーチとして活動。2015年～青山学院大学の助手助教および女子バレーボール部コーチとして着任し、2017年全日本インカレ優勝を経験。2020年～仙台大学体育学部講師・バレーボール監督に就任。研究分野/ スポーツ科学/コーチング学、トレーニング学

取り組んできました。インカレでは強豪の立教大学と対戦し敗れましたが、大舞台ならではの緊張感も含め良い経験になりました。

小松 今年は3年生が11人と多く、「私たちが決めなくては」というプレッシャーがありました。その中でリーグ戦を勝ち抜き、インカレ出場の価値はとても大きいと思います。

富里 「先輩のために」「後輩がやりやすいように」と、今まで一番、周囲のことを考えてプレーした1年でした。インカレでは1回戦敗退でしたが、多くの収穫があり、来年に活かしたいです。

上岡 初めて全国の舞台に立ち、「強いチームはこういう姿なんだ」と再認識しました。今の私たちに足りないもの、必要なことをチーム全員で共有できたと思います。キャプテンとしてインカレに出場できたことは一生の宝物です。

Q 4年生となる皆さんのがんばり方の目標は?

村山

東北リーグ優勝、そしてインカレ出場と1勝。今年の結果を必ず超えたいです。

小松

私も同じです。大学生活最後の年なので、東北リーグ優勝を必ず達成したいです。

富里

私も同じで。大学最後の年なので、バレー人生を悔いなく終えたいです。

上岡キャプテンから3年生へ
新4年生となる皆さんのが、新入生を迎えて、新たなチームを引っ張る年になります。自覚と責任を持つて、まずは東北リーグ優勝を成し遂げてください。私たちも時間を作つて応援に行きます。これからも楽しみながら、頑張ってください!



私が監督に就任して現在6年目です。部員は東北を中心に、茨城県や宮崎県からも集まっており、現在は30人が在籍し、3年生が11人と最も多いです。東北リーグ上位進出を目標に掲げ、少しづつ順位を上げる中で、競技志向が高まった結果、東北リーグ3位、インカレ出場を果たしました。

バレーボールは人と人をつなぐ競技です。次の人のためにボールをどうつなぐかを考えながらプレーをする中で思いやりや献身といった価値観が自然と育れます。今年のチームは特に互いを思いやる気持ちが強いと感じています。また、6年前導入したアプリ「ワンタップスポーツ」の効果も実感しています。各自がスマートフォンから睡眠時間や睡眠の質、練習時間、肉体的・精神的な疲労度といった自身の状態を入力し、可視化されたデータを私やスタッフが確認し、指導に活かせるツールです。選手が自分の身体や体調管理に意識を向けることで、パフォーマンス向上やケガ予防にもつながっています。

全日本インカレという舞台を経験できたことは、選手たちの大きな収穫です。4月18日から東北リーグがスタートします。インカレ出場を糧に、新4年生を中心に新たな風を運んでくれることを大いに期待しています。

野球も学びも充実の4年間 アナリストの道を拓いてくれた すべての出会いに感謝！

◎内定先/プロ野球球団 アナリスト

五十畠 洸弥さん

スポーツ情報マスマディア学科4年 硬式野球部 埼玉県昌平高校出身
<my favorite> 好きな言葉/乾坤一擲(けんこんいってき)運命を賭けて大勝負すること 好きなこと/料理(チキン南蛮
が得意)、音楽鑑賞・坂道グループ特に桜坂 夢/高校野球の指導者となり、甲子園に出場すること



アナリストとは、試合や練習で得られる膨大なデータを分析し、そこから導き出した客観的な根拠をもとに、監督やコーチの戦略・戦術に役立てたり、選手のパフォーマンス向上を科学的にサポートしたりする専門職だ。近年ニーズは高まっているものの、採用枠は狭き門。その中で、プロ野球球団のアナリストとしての道を切り拓いたのが五十畠洸弥さんである。人知れず努力を重ねてきたからこそ掴み取った、まさにビッグチャンスと言えるだろう。

アナリストをめざす理想的な環境

「少年野球の指導者だった父の影響で、自然に野球を始めました」と語る五十畠さん。スポーツ少年団を経て、中学からはクラブチーム「小山ボーイズ」に所属しました。見えないところでコツコツと努力を積み重ねるタイプだったようで、「小柄な分、足で稼げるよう速く走る練習をしました」と振り返る。

転機となつたのは、進学した強豪昌平高校での野球部監督との出会いだった。監督は、ID(データ)野球で知られ、プロ野球界において長年監督を務めた故・野村克也氏から指導を受けた経験を持つ人物。その頃すでに「自分は選手としてよりも、支える側の方が向いているのでは」と考え始めていた五十畠さんが「アナリストをめざしたい」と相談すると、勧められたのが仙台大学だった。監督と本学硬式野球部・森本吉謙監督との交流もあり、直接対面

アナリストとは、試合や練習で得られる膨大なデータを分析し、そこから導き出した客観的な根拠をもとに、監督やコーチの戦略・戦術に役立てたり、選手のパフォーマンス向上を科学的にサポートしたりする専門職だ。近年ニーズは高まっているものの、採用枠は狭き門。その中で、プロ野球球団のアナリストとしての道を切り拓いたのが五十畠洸弥さんである。人知れず努力を重ねてきたからこそ掴み取った、まさにビッグチャンスと言えるだろう。

大切にしてきた選手との信頼関係づくり

入学後は硬式野球部に所属し、学生コーチとして活動を開始。授業では、春高バレーのデータ分析なども経験し、「さまざまな競技のデータを扱う中で、野球に活かせる視点も多く、非常に勉強になりました」と、アナリストの醍醐味を実感したという。

そんなある日、硬式野球部のコーチから「アナリストをやってみないか?」と声をかけられた。願つてもないチャンスに「ぜひやらせてください」と即答し、正式にアナリストとしての役割を担うことになった。最も心を碎いたのは、選手とのコミュニケーションだ。「データ作成に追われて選手との会話が疎かになると、一番大事な信頼関係が薄れてしまう。信頼がなければ、どんなデータも信じてもらえません」。

チームの勝利のために常にベストを尽くす

最も印象に残っている試合は、2023

した際に「200人の選手がいる中で、学生コーチやアナリストの存在がいかに重要か」を語つてくれたという。さらに、スポーツ情報マスマディア学科では、アナリストになるための実践的な学びができるなどを知り、「学んだことをグラウンドで活かせる。一挙両得の環境」と感じ、仙台大学への進学を決意した。

データの凄さも怖さも、誰よりも熟知している五十畠さんは「選手のコンディションや環境、その時々の状況は刻々と変わる。だからデータは決して絶対ではありません。それでも、僕は自分の役割に対しても常にベストを尽くすだけです」と語る。その表情は、プロの世界へ踏み出す覚悟に満ちていた。



年6月の全日本大学野球選手権。桐蔭横浜大学(神奈川)との一戦で、延長10回の末、4-1で勝利を収めた試合だ。相手は、絶対的エース古謝樹投手(現東北楽天ゴールデンイーグルス)。「その試合で僕が用意した対戦相手の分析データが役立つたと、みんなから『ありがとう』と言つてもらえた瞬間が、今でも脳裏に焼きついっています」。

子どもの自由な発想を尊重し、「運動遊び」の楽しさを伝える保育士になりたい!

◎内定先/宮城県亘理町 保育士

はまだなな
瀬田 菜菜さん

子ども運動教育学科4年 宮城・角田高校出身

<my favorite> 好きな言葉/為せば成る 好きなこと/ドライブ、母を乗せて道の駅めぐりにハマってる
好きな食べ物/海鮮丼



「運動遊び」は、子どもの身体能力を高めるだけでなく、人間関係やコミュニケーション能力を育むなど、心身の発達を促す効果から注目されている。本学の「子ども運動教育学科」は、「運動遊び」を中心とした運動遊びの実践的学習が最大の特徴だ。「運動遊び」への興味をきっかけに、本学へ入学し、この春から保育士として新たな一步を踏み出す瀬田菜菜さんに話を聞いた。

ずっと描き続けた保育士になる夢

「身体を動かすのが大好きで、園庭の遊具の遊び方を工夫したりする、やんちゃな子どもだったみたいです」と笑顔で話す瀬田さん。お世話焼きな性格で、年下の子どもの面倒を見ることが多かったといふ。小学4年生からは水泳と陸上を始め、地元角田市の総合型地域スポーツクラブ「スポーツくんだ」に通うようになる。中学校では陸上部に所属し、1500mと3000mに取り組む一方、スポーツで小学生と一緒に走ったり、ボランティア活動に参加したりしていた。

そうした経験を重ねる中で、保育士になりたいという思いが自然と芽生えていく。ある時、コーチに「身体を動かす楽しさを子どもたちに伝えられる保育士になりたい」と相談すると、「それなら、仙台大学に新しい学科ができるよ」と勧められたのが「子ども運動教育学科」だった。「自分がやりたいことを学べる学科ができるな

んで、まるで運命のように感じました」と、進学を決意した理由を振り返る。

地域のボランティア活動から得た学び

念願かなって本学に入学したものの、1年次はコロナ禍の影響でオンライン授業が中心だった。2年次から対面授業が増え、仲間との交流も深まり、保育に関する専門科目も本格化。3年次には、宮田洋之先生のゼミに所属し、待望の「運動遊び」の実践がスタートしたことで、大学生活は一層充実したものとなつた。

同じ頃、地元・角田市の保育所で保育実習を経験する。「楽しさを感じる一方で、自分の未熟さも実感しました。受け身ではなく、自ら進んで体験することが大切だと考え、亘理町の放課後児童クラブでボランティア活動を始めました」。ゼミでは、保育現場で運動遊びを行なうスタッフとして活動に参加するなど、意識的に子どもと関わる機会を増やしていく。その積み重ねが実を結び、4年次の実習では、これまでの気付きや反省を活かし、自信を持つ取り組めるようになったという。

運動遊びで子どもたちを笑顔にしたい

3年時の進路選択では、当初は民間の保育園や幼稚園を考えていたが、途中から公務員試験に挑戦することを決意。「宮田先生をはじめ、先生方には試験対策で本当にお世話になりました」と感謝を口にする。結果、公務員試験では受験した1

市2町すべてから内定を獲得し、「先生方が一緒に喜んでくださったことが、とても嬉しかったです」と振り返る。

この春から保育士として現場に立つ瀬田さん。「子どもの頃の私がしてもらったように、子どもの意思や自由な発想を大切にできる保育士になりたいです。遊びの中で自然に身体を動かし、「運動って楽しむ」次はスポーツもやってみたい」と思ってもらえたなら嬉しいですね。子どもたちの運動嫌い、スポーツ嫌いを減らす手助けができたらと思っています」。本学で身に付けた「運動遊び」を通して、これから多くの子どもたちを笑顔にしていくに違いない。



未来へ挑む仙台大生たちへ

～祝 鈴木省三先生 令和7年秋の叙勲 旭日小綬章受章～ 「スポーツの力」を信じ、導かれてきたひとすじの道

すず き しょうぞう
鈴木省三さん(昭和60年3月体育学科卒・前宮城県スポーツ協会会長・旭日小綬章受章)

昭和30(1955)年3月、北海道室蘭市生まれ。仙台大学体育学部卒業後、東北学院大学大学院修士・博士課程修了(博士^{学術})。本学教授、副学長を歴任。日本体力医学会、日本オリンピック協会評議員、(財)日本オリンピック委員会選手強化本部員・NTC委員、(財)日本体育協会全国スポーツ指導者連絡協議会代表委員、日本ボブスレー・リュージュ連盟選手強化本部長、NPO法人NSCAジャパン編集委員、国際連盟ジュリー国際審判団、(公財)宮城県スポーツ協会会長などを務める。現在は公益財団法人仙台市健康福祉事業団「せんだい豊齢学園」講師。



1984年サラエボオリンピックにボブスレーのコーチ兼選手として出場し、その後は本学で教育・研究に携わりながら、全日本や本学の監督として多くの選手を育成してこられた仙台大学OBの鈴木省三先生。このたび令和7年秋の叙勲において、スポーツ振興を通じた社会貢献が高く評価され、旭日小綬章を受章されました。ここでは、先生が歩んでこられた道のりと現在のご活動についてご紹介します。

26歳で訪れた人生の転機

昨年末、旭日小綬章という大きな栄誉を賜りました。胸に込み上げるのは、ただただ感謝の思いです。出会い、環境、仲間、そのためがなければ今日の私はありません。

私は室蘭で生まれ、高校では陸上競技に打ち込みました。卒業後、王子製紙の実業団で十種競技の選手として活動していました頃、ボブスレー連盟から「選手兼コーチとして挑戦しないか」と声をかけられました。指導者として必要な知識を身につけたことと考え、トレーニングドクターの勧めで仙台大学を受験。26歳で高校生に混じって一般試験に挑み、合格しました。

ボブスレーの コーチ兼選手としての挑戦

大学入学後は仲間集めから始め、陸上部に協力を依頼してボブスレー同好会を結成(3年後、部に昇格)。在学中、大学で学んだ知識を実践知に落とし込む作

業を、恩師の佐藤佑教授に徹底的に鍛えられました。スポーツ科学の理論をボブスレーの競技向上に直結させる強化プログラムを実践し、ベンチプレスは80kgから160kgへ、スクワットは120kgから220kgになるなど私の身体能力は飛躍的に向上しました。同時に当初ボブスレーのワールドカップで20位だったのが、6位になりました。私を含む3人が仙台大学初のオリンピアンとなり、サラエボオリンピックに出場したのです。

4年生となり、進路を決めるにあたり、仙台大学に残らないかと声をかけていただきました。当初卒業後は北海道に戻る予定でしたが、熱氣あふれる環境に魅了され残る決断をしました。それが、私の仙台大学での教員とボブスレーの指導者人生の幕開けでした。

32歳の時には、日本オリンピック委員会の在外研修員としてカナダ・カルガリー大学に派遣され、デヴット・スマス教授のもと、スポーツ科学を活用したピーキング理論を学べたことは幸運なことでした。その後も研究と指導を続けながら、ボブスレー連盟のコーチ、長野オリンピック競技委員長、国際連盟ジュリー国際審判団などを務め、計12回ものオリンピックに携わる機会に恵まれました。

70歳、生涯アスリートとして

昨年3月に70歳を迎え、町内のシニアソーボールに加え、古希チーム「仙台太白イーグルス」でも活動しています。マスター



右は枝理子夫人(仙台大学OG)

皆さまへの感謝を込めて

仙台大学は、私にとって人生の礎です。右も左もわからなかつた26歳の若者にチャンスを与え、かけがえのない経験を積ませていただきました。今回の受章は、仙台大学の皆さまのお力添えの賜物です。心より感謝を申し上げるとともに、大学のさらなる発展と、皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

ズ陸上にも挑戦し、砲丸投げ、やり投げで宮城県新記録を樹立。全日本マスター陸上大会では砲丸投げ地やり投げで2位となり、次の目標もできました。

また、「せんだい豊齢学園」では、認知症予防や転倒防止、介護予防など、生活に根ざした運動の大切さを伝えています。年齢を重ねれば身体は弱くなりますが、好奇心を持ち、心が動くことに挑戦し続けることで、身体は必ず応えてくれます。

私はずっと「スポーツの力」を信じてきました。スポーツは人を成長させ、努力する意味を教え、仲間や対戦相手、観客との関わりが人間力を育てます。そして、今もスポーツを通して、「いくつになつても成長できるんだ」という実感が私を支えています。



頑張る卒業生・先輩に続け!

仙台大から村づくりの最前線へ 八戸慎幸さん、蓬田村の村長として新たな一步

はちのへのりゆき
八戸慎幸さん(平成8年3月体育学科卒-青森県蓬田村・村長)

現職:青森県蓬田村 村長 昭和49(1974)年3月、青森県蓬田村生まれ

学歴:青森北高校-仙台大学体育学部体育学科(平成8年3月卒)

座右の書:清沢哲夫「道」 趣味:合気道、ソロツーリング、映画鑑賞

目標:「一村自立で村政150年以上」

好きな食べ物:「蓬田産ブランドとまと」と「寿司」と「パスタ」

仙台大時代の卒論の題目:「日本のプロスポーツとメディアの影響の調査-サッカーと野球についての考察-」

令和7年10月、青森県蓬田村の村長選で初当選を果たした仙台大学OBの八戸慎幸さん。

仙台大時代に培った「行動力」と「人とのつながり」が、いま地域のリーダーとして活かされています。

「変わることを恐れず、挑戦することを楽しんでほしい」。

故郷の発展に情熱を注ぐ八戸さんに、村づくりへの思いと仙台大での学びについて伺いました。

就任への道のり

● 村長選に立候補されたきっかけを教えてください。

人口減少が進み、地域に活力が乏しくなっていく中、行政職員として、もっと地域の為にできることはないかと考えていました。地域の方々、同じ職場の仲間、友人から背中を押され、出馬を決意しました。

● 当選が決まったときの率直な気持ちはいかがでしたか?

まずは、ほっとしました。同時に、村長としての責任と住民からの期待の大きさを強く感じました。

仙台大での学びと現在の仕事

● 学生生活で印象に残っていることは?

最も印象深いのは、人とのつながりです。部活動や学友会活動を通して築いた人間関係は、自分のアイデンティティ形成に大きく影響しています。学友会活動により、他の大学の友人 geki ができたことも印象

深い思い出です。

● 大学時代の経験は、現在にどう活きていますか?

私は一般入試で仙台大に入学し、当初は部活動に所属せず、アルバイトに励んでいましたが、2年次から、空手道部とリエーショング研究部(レク研)に所属しました。多くの人と関わり、さまざまな価値観に触れた経験が現在のリーダーシップや行政運営に活きてています。

●印象に残っている学びは?

空手道部では、中房敏朗先生(現・大坂体育大学教授)から礼儀や立ち居振る舞いを徹底的に教えていただき、レクリエーション研究部では、地域の子どもたちとの関りを通して相手に寄り添う姿勢や「コミュニケーション」の大切さを学びました。

村づくりへの思い

● 重点施策・課題について

最優先課題は人口減少と少子化対策です。人口減少をいかに鈍化させ、限られた人材の中で持続可能な自治体運営を行うかを重視しています。

● 村の魅力をどう活かしますか?

「温故知新」を基本に、これまで培ってきた文化や風土を大切にしながら、若い世代の発想を取り入れ、地域の特色を磨いていきたいと考えています。

後輩へのメッセージ

● 仙台大の後輩たちへ。

失敗や変化を恐れず、大学生活という

貴重な時間を使って多くの経験をしてください。元楽天ゴールデンイーグルス・野村克也監督の言葉「失敗と書いて、成長(せいちょう)と読む」の通り、失敗から学ぶことが将来の糧になると思います。

最後に

● これから目標と村の未来像。

蓬田村は、2019年(平成31年/令和元年)に130周年を迎えた歴史ある村です。この伝統を未来へと継承していくために産業の強化と、安全安心に住み続けられる環境づくりを進め、持続可能で魅力的な地域づくりを目指したいと考えています。



一仲間と築いた挑戦の先に— フロアボールで広がった世界

はたなか みお
畠中 海音さん

健康福祉学科・4年
秋田・本荘高校出身

2003年秋田県生まれ。

趣味／お友達とのおしゃべり

推し／川口春奈 好きな食べ物／アボカド

現在の目標／お世話になった皆様に頑張っている姿で恩返しをする



フロアボールの日本代表として、昨年12月にチェコで開催された世界大会に出場した畠中海音さん。大学入学後に競技と出会い、学生主体でチームをつくり上げる環境の中で力を磨いてきた。キャプテンとしてチームを率いた経験や日本代表への選出。仲間と歩んだ挑戦の日々が、次のステージへとつながっている。

選択の先にあつた日本代表

日本代表への道のりは、決して順調なものではなかった。3年生の時、代表選考会への応募を一度は考えたものの、当時はチームのキャプテンを任せられていた。「自分が代表を目指すよりも、まずはチームをより良くすることを優先したい」と考え、エントリーを見送ったという。

その後、キャプテンを後輩に譲り、一選手として新たな視点でフロアボールに向き合う中で、競技への情熱はさらに高まつていった。「このタイミングで、これまでの集大成として挑戦したい」。そう決意して臨んだ代表選考会で、日本代表にフロ

ル、高校ではボート競技と、さまざまなスポーツに親しんできた。大学入学を機に「これまでとは違う競技に挑戦したい」と考え、体験会で出会ったのがフロアボールだった。「実際にやってみて、純粋に楽しかったことが一番の理由です」と語る。

フロアボール部には専任の指導者がおらず、O.B・O.Gや学生同士が教え合いながらチームをつくり上げていくスタイルだ。その環境に強く惹かれ、「学生主体でチームが動いている雰囲気が魅力的でした」と振り返る。競技そのものの面白さだけではなく、仲間とともに成長していくプロセスが、フロアボールの世界へと引き込んでいった。

新たな挑戦が導いた フロアボールとの出会い

小学校時代は水泳、中学ではバレー、ボ

世界大会と学生生活の集大成、 そして未来へ

ワードとして選出された。「突出した強みはないが、まんべんなくプレーできることが自分の武器」と、冷静に自分自身を分析する。

12月にチェコで開催された世界大会では、日本代表は16か国中13位という結果だった。前回大会の9位を上回ることを目標に掲げていただけに、予選リーグを突破できなかつた悔しさは大きいと語る。「一方で、順位決定リーグでは全勝を果たし、若い世代中心で臨んだチームとしての手応えを感じた大会となつた。「自分自身は1試合しか出場できなかつたので、その点は一番悔しかつたです」と率直な思いを明かす。

帰国後すぐに行われたインカレでは、2年連続となる準優勝。最後の大会で優勝し、支えてくれた人たちに恩返しをしたいという思いは強かった。「結果は届きませんでしたが、真剣に勝ちを取りに行く姿勢を見せることで、気持ちは伝えられたと思います」。

今後は地元・秋田県内の企業への就職が決まっている。「秋田でチームをつくり、フロアボールを広めていきたい」。スポーツが持つ力を信じ、地域を盛り上げたいという思いは強い。授業や競技を通じて身に付けたコミュニケーション能力は、社会に出てからも大きな支えになるはずだ。

仲間とともに歩んだフロアボールでの日々は、畠中さんの次のステージへと確かにつながっている。

柔道と共に、自分を変え続けたい

牛方 美羽さん

現代武道学科・2年
徳島・生光学園高校出身

2006年福岡県生まれ。
趣味／映画鑑賞(最近はホラー映画にはまっている)
推し／パク・ミニョン 好きな食べ物／焼肉
現在の目標／全日本学生柔道優勝大会での優勝



中学時代は目立った成績を残せず、競技を辞めようと悩んだこともあったという。しかし、恩師の言葉に背中を押され、柔道の道を歩み続けてきた。全日本学生体重別選手権3位、皇后杯5位。日々変化し続ける姿勢を強さに変え、今、日本一、そしてオリンピックという夢に向かって畳に立ち続けている。

支えてくれた言葉が、転機に

柔道を始めたのは小学3年生の時。いとこが柔道をしていたことがきっかけで体験会に参加した。女子選手が多く、自然と「やつてみたい」と思ったという。「幼少期にはピアノも習っていて、今でも少しだけですが弾けるんですよ」と笑う。

柔道を始めたのは小学3年生の時。いとこが柔道をしていたことがきっかけで体験会に参加した。女子選手が多く、自然と「やつてみたい」と思ったという。「幼少期にはピアノも習っていて、今でも少しだけですが弾けるんですよ」と笑う。

その後、中学校でも柔道は続けるが、目立つ成績を残していたわけではなく、「柔道を辞めようか」と悩んだ時期もあった。そんな彼女を支えたのが、一人の恩師の言葉だった。親元を離れての高校生活に不安はあったが、恩師からの言葉が、競技を続ける大きな転機となつた。

高校では順調に力をつけ、大学進学を意識していたところ、ある大会会場で南條和恵監督(柔道部女子監督)から声をかけられた。その熱意あふれる指導姿勢に強く惹かれた。充実した練習環境も決め手となり、入学を決意した。

変化し続けることが、強さになる

大学での柔道生活はまだ2年目だが、その中で特に心に残っているのは、4年生と共に

日本一、そしてオリンピックへ

「日本一になつてオリンピックに出場した

い。」そう力強く語る牛方さんは、仙台大学柔道部に所属する78kg超級の選手だ。

全日本学生体重別選手権3位、皇后杯全日本女子柔道選手権大会5位と着実に実績を積み重ね、現在は全日本強化選手(B強化)にも名を連ねている。

柔道を始めたのは小学3年生の時。いとこが柔道をしていたことがきっかけで体験会に参加した。女子選手が多く、自然と「やつてみたい」と思ったという。「幼少期にはピアノも習っていて、今でも少しだけですが弾けるんですよ」と笑う。

現在の目標は明確だ。柔道で「日本」になり、オリンピックの舞台に立つこと。そのため大切にしているのは、「日々変化し続けること」だという。稽古だけでなく、私生活も含めて自分を律することを意識している。体づくりや競技力向上のため、毎食ゆで卵を最低3つ食べる事が南條和恵監督からの使命だというエピソードには、思わず笑みがこぼれる。

将来の夢は刑務官になること。いとこが刑務官として働き、罪を犯した人を更生させ社会へ戻す姿に憧れを抱いた。しかし、今は柔道に集中し、オリンピックを目指すことを最優先に考えている。

仙台大学の魅力については、「武道だけでなく、公安系などの専門的な分野まで学べること。将来に必ず活きる学びがある」と話す。競技と学業を両立できる環境は、大きな支えとなつていている。休日には部員とともに仙台市内で食事を楽しむなど、心身をリフレッシュする時間も大切にしている。

憧れの選手は、同じ福岡県出身で2020東京オリンピック柔道女子78kg超級金メダリストの素根輝選手。中学生の頃、一度だけ組んでもらった経験があり、そこから目指すべき選手になつたという。「あの強さに少しでも近づきたい」。その思いを胸に今日も畠に立ち、変化を恐れず、自分を磨き続けている。

理論と実践で育む、幼児体育・運動遊びの専門性 — 運動遊びを強みに、保育のプロフェッショナルへ

宮田 洋之 講師 専門領域／幼児体育・運動遊び・発育発達学

幼児期の運動遊びは、体力や運動能力の向上だけでなく、意欲や社会性を育む重要な役割を担っています。子ども運動教育学科では、体育学を基盤に教育学・保育学の視点を融合し、理論と実践を結び付けた学びを通して、幼児体育・運動遊び指導ができる保育者の育成に取り組んでいます。



- ◆資格・免許／中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育) 中学校・高等学校教諭専修免許(保健体育)
- レクリエーション・インストラクター
- キャンプ・インストラクター
- SAJスキー検定2級
- ◆著書／子どもの健康と遊びの科学(共著)
- ◆論文／幼児の生活習慣および保護者のサポートが体力発達に及ぼす影響(共著)ほか
- ◆講演／保育者、教育者を対象とした運動遊び研修会多数
- ◆社会活動／JSPO-ACP研修会
シニアリーダースクール
みやぎスポーツドリームプロジェクトほか

子ども運動教育学科では、体育学を基盤に教育学・保育学の視点を融合させ、幼児期の運動遊びの支援・助長に関する教育研究を体系的に行っている。宮田先生は「幼児体育・運動遊び指導を実践できる保育者を育てたい」という想いは、教員としての原点です」と語る。

専門は発育発達学と幼児期の運動遊び指導で、日本スポーツ協会アクティブ・チャイルド・プログラム(JSP-O-ACP)研修会を担当。第3期スポーツ基本計画で推奨されている運動遊びプログラムの普及にも携わってきた。「知識として理解するだけでなく、現場で使える力を身につけてほしい」との考え方から、授業では理論と実技を結び付けた指導を重視している。

幼児教育現場で専任体育教諭として勤務した経験も、教育内容に反映されている。保育現場で何に困り、どんな支援が求め

幼児体育・運動遊び指導ができる 保育者を育成

子ども運動教育学科では、体育学を基盤に教育学・保育学の視点を融合させ、幼児期の運動遊びの支援・助長に関する教育研究を体系的に行っている。宮田先生は「幼児体育・運動遊び指導を実践できる保育者を育てたい」という想いは、教員としての原点です」と語る。

専門は発育発達学と幼児期の運動遊び指導で、日本スポーツ協会アクティブ・チャイルド・プログラム(JSP-O-ACP)研修会を担当。第3期スポーツ基本計画で推奨されている運動遊びプログラムの普及にも携わってきた。「知識として理解するだけでなく、現場で使える力を身につけてほしい」との考え方から、授業では理論と実技を結び付けた指導を重視している。

子どもとの触れ合いを大切に

「運動の専門性を持つ保育者は、子どもが発達を日常の中で支えることができます。本学科の卒業生には、現場の期待に応えられる存在になってほしい」と宮田先生は語る。

学科では、地域の保育施設等での実習やボランティア活動を通して、子どもと直接関わる機会を重視している。「子どもと触れ合う楽しさは、現場でしか学べません」。学生は、理論で学んだ内容を実践し、子どもの反応から多くを吸収していく。

初めて指導に立った学生が、「子どもたちの笑顔や『楽しい』という言葉をきっかけ

られているのかを実感してきた。実感してきたからこそ、保育者としての視点と体育の専門性を兼ね備えた人材の育成を目指している」という。

現場のニーズに応える人材養成



未来を見据えた連携と展望

宮田先生は、幼児期の運動環境を支えるためには産官学連携が不可欠だと考えます。「大学、行政、民間が連携し、専門家をつなぐ仕組みが必要です」。専任体育教諭の配置が難しい場合でも、専門家の紹介やオンライン相談など、多様な支援の形が考えられるという。

「本学科の学生には、幼児体育の専門性を活かし、地域と人をつなぐ存在になつてほしい」。その眼差しは、学生一人ひとりの成長と、子どもたちの健やかな未来に向けられている。

に自信を深めていく姿も少なくない。こうした経験の積み重ねが、実践力の向上につながっている。さらに、地域の指導者向け研修会を通じてJSPO-ACPの普及にも取り組み、幼児期の運動遊びの質向上に貢献している。

同窓会新規事業
第1期生「喜寿の会」を
開催しました



令和7年11月9日(日)、仙台市のホテル白秋において、「宮城支部設立総会」が開催されました。これまで宮城県内には、石巻・大崎・仙台・仙南の4つの支部がありました。県内支部のさらなる活性化を図ることを目的に役員会を組織し、設立に向けた準備を進めてきました。

設立総会には約70名の同窓生が出席し、設立に至る経過報告の後、支部規約および支部役員等が承認され、宮城支部が正式に設立されました。宮城支部の初代支部長には、第2期生の千葉純様が選任されました。

総会後に行われた懇親会には、朴澤泰治理事長、高橋仁学長にもご臨席を賜り、仙台大学の地元・宮城県における同窓会活動をさらに活発化させていこうという、熱意あふれる絆が育まれました。今後の宮城支部の活動に大きな期待が寄せられています。

令和7年11月1日(土)、第1期生による「喜寿の会」が開催されました。

本会は、同窓会事業として実施してきた還暦同期会から発展し、第8期生の「古希同窓会」が開催された流れを受けて企画されたものです。

開催案内は、送り先の確認ができた34名の方に送付し、当日は13名の皆さまにご出席いただきました。

当団はキャンパス見学に加え、女子硬式野球部員との交流の時間を設け、和やかなひとときを過ごすことができました。続いて行われた懇親会には、朴澤泰治理事長、高橋仁学長にもご臨席を賜り、開学当時のさまざまなエピソードを伺いながら、当時を懐かしみました。閉会にあたっては、校歌を高らかに齊唱しました。

この「喜寿の会」は、今後、毎年11月の第1土曜日に開催することとしており、第2期生の喜寿の会は、今年11月7日(土)に開催する予定です。

「宮城支部設立総会」開催
宮城県内の4支部が
一本化されました。



令和7年11月22日(土)、第16期生「還暦同期会」(発起人／紋谷洋三様、及川功次郎様)が開催されました。

当日はバスによる大学施設見学や、懐かしい船岡の街の案内が行われ、思い出深い風景と新しくなった街並みを眺めながらのバスツアーヒになりました。

その後に行われた懇親会には、第16期生25名が出席し、和やかなひとときを過ごしました。会は二次会、三次会へと続き、グループLINEの作成などを通じて、今後の再会を誓い合いました。



同窓会に関するお問合せは下記事務局へ
(問合せ・連絡先)

仙台大学同窓会事務局(仙台大学内)
〒989-1693 柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18
TEL・FAX(直通) 0224-55-1449
事務局長 佐藤一拡(12期生)
E-mail kz-sato@sendai-u.ac.jp
氏名・住所変更
E-mail suaa-kanri@sendai-u.ac.jp

仙台大学同窓会

仙台大学第16期生
「還暦同期会」開催

令和8年度同窓会
「社員総会」のお知らせ

■ 日時	令和8年6月6日(土) 15時～
■ 会場	ホテル原田inさくら(船岡駅前)
■ 日程	「社員総会」 15時～
■ 「懇親会」	17時～
■ 全国支部への正式案内は	3月になります。

今後の同窓会事業のスケジュール

- 令和8年2月7日(土)
三重支部総会(鳥羽市)
- 令和8年5月16日(土)
- 令和8年6月6日(土) 社員総会(船岡)
- 令和8年11月7日(土)
- 令和8年11月28日(土)
- 令和8年12月7日(土)
- 令和8年12月14日(土)
- 福島支部総会(郡山市)
- ※以上、予定が確定していますので、各支部は総会等の日程が重ならないようご配慮お願い致します。

仙台大学同窓会の日本酒

スペイン酒類国際コンクール「CINVE2022」金賞受賞
国際日本酒コンクール「Oriental Sake Awards 2022」銀賞受賞／香港

本学の学生と蔵人により醸しだされた純米大吟醸です。味わいは酵母由来の香りを控えめにし、造り手のこだわりを感じ取れるように仕上げた究極の食中酒です。皆さんの過ごした青春時代を思い出しながら、あるいは親しい方と過ごした仙台大学を感じながら、また語りながら、味わっていただきたいと思います。



使用米：宮城県産ひとめぼれ100%

精米歩合：50% アルコール分：16度

酵母：宮城酵母

酒質：日本酒度/+4度/1.6アミノ酸/0.1

保存方法：-5度～5度の冷蔵管理

価格：1800ml・販売価格(税込)：3,080円

500ml・販売価格(税込)：998円

〈購入について〉

以下の販売店様にご注文下さい。

丸正酒店(宮城県角田市角田字町177)

TEL 0224-62-2002 FAX 0224-62-0625

仙台大学同窓会オリジナルグッズ

プロシャツ、バスタオル、フェイスタオル、ボールペン、ステッカーが新たに登場! 売り上げの収益は全て学生の活動支援に活用されます。

プロシャツ サイズ/S・M・L・LL	2,500円
フェイスタオル サイズ/H33×W86cm	1,000円
バスタオル サイズ/H70×W140cm	3,000円
多機能ボールペン 仕様/黒・赤・シャープペン	1,500円
同窓会ロゴステッカー	600円
詰め合せセット プロシャツ・フェイスタオル・ バスタオル・多機能ボールペン・ステッカー	8,000円

【お申込み方法】

右のQRコードから注文書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、FAX又はEメールでお申し込みください。電話でのお申込みも可能です。

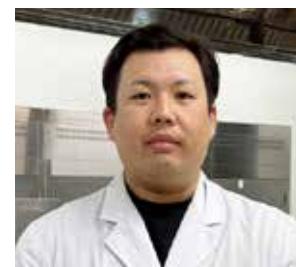


〈お申込み・お問い合わせ〉

一般社団法人仙台大学同窓会

TEL・FAX (兼用) 0224-55-1449

Email kz-sato@sendai-u.ac.jp



仙台大で培った

運動栄養の学びを原点に、
子どもたちの未来を支える栄養教諭へ

仙台市立高砂小学校 栄養教諭

千葉 慎太郎さん 平成24年度運動栄養学科卒業

私は高校まで野球に取組み、自身の競技力を高めるにはどうすればよいか日々考えていました。そんな時、運動と栄養を関連付けて学ぶことができる仙台大学の運動栄養学科(現スポーツ栄養学科)を見つけ、迷わず進学を決めました。3年次まで栄養士、教職・トレーナーの授業を履修し、ほぼ毎日フルコマ。友達と助け合い、必死に勉強したのを覚えています。

運動栄養学科では授業以外に、選手に対する栄養指導や食事提供、大会帶同など、他の大学では得ることができない実践経験を積むことができました。トップアスリートが多く在籍し、一生懸命頑張っている選手に対して半端なことはしたくない、自身も選手同様、高みを目指したい、自己研鑽に励んだ4年間は計り知れないほどの価値があったと考えます。

大学卒業後は、「小さい頃から栄養への興味関心を持つて欲しい」、「お世話になった宮城県・仙台市出身のアスリートを増やしたい、貢献したい」と考え、栄養教諭を志しました。1年に1～2名程度しか採用枠がない狭き門でしたが、働きながら何度も教員採用試験に臨み、何とか仙台市初の男性栄養教諭として合格を勝ち取りました。

栄養教諭は給食提供だけではなく、予算管理や成長期に必要な栄養量の確保、食に関する指

導・アレルギー対応や偏食等の個別支援・指導、施設管理など多岐にわたります。栄養バランスの良い給食でも「おいしい」と言われることもあり、その度に次は絶対に「おいしい!」と言わせたい、少しでも子供の成長にプラスになるよう努力をしたいと試行錯誤を繰り返す毎日です。児童生徒の心と体を通して命にも関わる「食」について扱う仕事であることを肝に銘じ、根拠と責任のある「教育」が実践できることからも学びを深めたいと考えます。

最後に、仙台大学での出会いや学びがなければ今の私は存在しませんでした。自分で学びたいことの探求や向上させる学び舎としてはもつてこいの環境だと思います。出会った先生方、友達、部活動・サポート研究会のメンバーの皆さんに心から感謝し、栄養教諭として志高く活躍し、ある意味で恩返しできるように、そして子供たちの将来のために尽力していくたいです。



■お問い合わせ内容と主な関連部署

入試(学内見学)関係	入試課	0224-55-1017
求人、就職指導関係	就職課	0224-55-1017
学生生活関係	学生生活課	0224-55-3019
奨学金関係	奨学金事務課	0224-55-1038
成績、各種証明書発行関係	教育企画課	0224-55-1086
資格取得の支援関係	資格支援課	0224-55-1307
大学院(入試含む)関係	大学院事務課	0224-55-5706
同窓会関係	同窓会事務局	0224-55-1449

仙台大学(代表)

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2-18

TEL 0224-55-1121/FAX 0224-57-2769

受付時間: 平日 8:30～17:15(受付時間外は留守番電話に切り替わります)



仙台大学は2025年3月13日付で「公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定されました。

今後も、仙台大学のトピックスや在学生・卒業生の活躍を皆様にお伝えすべくより良い紙面づくりのため、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。アンケートにご協力をお願いいたします。

在学生以外の住所変更ははこちら

※在学生の住所変更は学生生活課に問い合わせください。

アンケートはこちら



仙台大学HP



Instagram



X(旧Twitter)



Facebook